



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2014.8

No.364

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



平成 26 年度(第 30 回)総会

平成 26 年 6 月 29 日(日)午後 1 時 30 分から、さいたま市民会館うらわで、総会を開催しました。(文中敬称略)

●記念講演



相原修一の司会で定刻に開始。記念講演は(公財)日本野鳥の会普及室堀本理華

(写真左)の「探鳥会スタッフ通信について」と同自然保護室長葉山政治(写真右)の「鳥獣保護法の改正について」。

●表彰式など

藤掛保司代表の開会の挨拶で総会が始まり、平成 25 年県内鳥見ランキング探鳥会参加回数の部 1 位の磯崎知子(写真右)と観察鳥種数の部 1 位の石塚敬二郎(写真左)に表彰状と副賞が渡され、28 年間にわたり研究部長をつとめた小荷田行男(欠席)に対する表彰状が読み上げられました。



議長に森本國夫、書記に山口芳邦、議事録署名人に青木正俊・田邊八州雄が選出されて、議事に入りました。

●平成 25 年度事業報告

海老原美夫事務局長が、映像をまじえて平成 25 年度事業について報告しました。

【普及活動関係】

普及部(部長:橋口長和)が担当した探鳥会は、年間 100 回(月平均 8.3 回)、参加者合計 4,517 人。その他リーダー研修会、年末講演会などを開催。普及部以外の会員の普及活動 13 件。

【保護活動関係】

密猟対策連絡会の識別研修会に出席、(株)ホンダ寄居工場バードストライク対策指導、2020 年オリンピック葛西臨海公園カヌー競技場建設計画変更要望活動に協力、見沼田んぼ・さいたま市&市民ネットワークに協力、など。

【調査研究関係】

研究部(部長:小荷田行男・小林みどり)は、カモ・ハクチョウ類、シギ・チドリ類調査などを継続。

記録委員会(委員長:小林みどり)は、7 件の事例について検討し、結果を『しらこぼと』誌上で発表。『日本鳥類目録改訂第 7 版』にはほぼ準拠した埼玉県野鳥チェックリスト 2013 年版を作製。

【編集活動関係】

編集部(部長:山部直喜)は、会誌『しらこぼと』を年 12 回、合計 21,600 部発行。

【総務・事務局関係】

会員数減少。減少率は 2.5%。関東ブロック協議会(栃木担当、小山市)などに出席。

【事業活動関係】

会の財政安定に貢献。

事業報告の詳しい内容は、当会ホームページに全文掲載していますので、ご覧ください。

●平成 25 年度収支決算

平成 25 年度収支決算は右ページ表の通りです。長野誠治・楠見邦博両監事が監査結果を報告。

●平成 26 年度事業計画・収支予算

平成 26 年度事業計画案と予算案は、通常の事業を継続することを基本としたものであることが説明され、ここまでの議事はその都度拍手で承認されました。

●平成 26 年度役員

前年度役員のうち倉林宗太郎(さいたま市)、

小池一男(寄居町)、内藤義雄(鴻巣市)、中里裕一(加須市)の4名が退任、そのほかの38名を再任、柴野耕一郎(写真①)、野口由美子(写真②)、菱沼洋子(写真③)、吉原早苗(写真④)の4名を新任として選出する案が承認されました。

総会議事を一旦中止して平成26年度役員による最初の役員会を同じ場所で開催、代表・副代表・監事を選出しました。



平成26年度の役員は次の42名です。

〔代表〕 藤掛保司(川越市)

〔副代表〕 海老原美夫(さいたま市)

〔幹事〕 相原修一(鴻巣市)
浅見徹(さいたま市) 新井巖(深谷市) 石井智(鴻巣市)
石川敏男(春日部市) 石光章(所沢市) 伊藤芳晴(川口市)
井上幹男(長瀨町) 入山博(春日部市) 榎本秀和(鴻巣市)
大坂幸男(上尾市) 小荷田行男(さいたま市) 小林みどり(さいたま市) 佐久間博文(川越市) 佐野和宏(越谷市) 杉本秀樹(習志野市) 柴野耕一郎(さいたま市) 須崎聡(川口市) 田邊八州雄(越谷市) 玉井正晴(蓮田市) 千島康幸(小川町) 手塚正義(川口市) 長嶋宏之(蓮田市) 中島康夫(蓮田市) 長野誠治(さいたま市) 中村豊己(東松山市) 野口由美子(上尾市) 橋口長和(春日部市) 長谷部謙二(川越市) 菱沼一充(白岡市) 菱沼洋子(白岡市) 茂木幸蔵(行田市) 持丸順彰(志木市) 森本國夫(さいたま市) 山口芳邦(新座市) 山部直喜(三郷市) 吉原早苗(北本市) 吉原俊雄(北本市)

〔監事〕 青木正俊(さいたま市) 楠見邦博(さいたま市)

日本野鳥の会埼玉 平成25年度決算 26年度予算
収入の部

	項目	25年度決算	26年度予算
一般会計	期首繰越金	1,815,780	1,081,257
	会費	2,840,650	3,000,000
	寄付金	9,100	10,000
	探鳥会参加費	213,588	250,000
	雑収入	1,091	2,000
	仮払金清算	11,972	0
	補助金	200,000	200,000
	一般会計合計	5,092,181	4,543,257
事業部会計	期首繰越金	2,557,322	2,603,784
	運営準備積立金	5,000,000	5,000,000
	事業部売上金	573,093	700,000
	事業部雑収入	2,769	3,000
	事業部会計合計	8,133,184	8,306,784
総合計		13,225,365	12,850,041

支出の部

	項目	25年度決算	26年度予算
一般会計	什器備品費	50,000	50,000
	消耗品費	15,946	20,000
	会報印刷費	1,202,040	1,300,000
	会報発送料	886,179	900,000
	印刷コピー代	145,890	190,000
	通信費	91,981	150,000
	雑費	144,121	150,000
	家賃	984,000	984,000
	水道光熱費	56,566	60,000
	総務部費用	71,236	80,000
	普及部費用	132,731	150,000
	編集部費用	18,089	20,000
	研究部費用	8,225	10,000
	予備費	124,740	100,000
	仮払金	79,180	0
	期末繰越金	1,081,257	379,257
一般会計合計	5,092,181	4,543,257	
事業部会計	事業部仕入れ金	527,310	600,000
	雑費	2,090	5,000
	運営準備積立金	5,000,000	5,000,000
	期末繰越金	2,603,784	2,701,784
	事業部会計合計	8,133,184	8,306,784
総合計		13,225,365	12,850,041

そろそろタカが動き出す！

タカの渡り観察への誘い

日本野鳥の会埼玉研究部 小林みどり

2014年1月号で「埼玉県内のタカの渡りルートをみんなで解明しよう」と呼び掛けました。そして記事の最後を「秋になったら、みんなで空を眺めてみましょう」と結びました。

ところで「タカが渡る秋」とは、いつ頃なのでしょう。1月号の図を再度、ご覧ください。この図は、長年にわたる各地でのタカ渡り観察から作成されたものです。

インターネットのサイト『Hawk Migration Network of Japan』(*)には、渡りの季節中は随時、全国40カ所以上の観察地からサシバ、ハチクマの状況が報告されています。

これによると茨城県水戸市森林公園では、年による違いはあるものの8月中旬から渡りが始まっていることが分かります。

特に昨年は動き出すのが早く、8月15日から8月31日の間にサシバ約300羽、ハチクマ約200羽が渡っています。残念ながら関東の他の観察地では、観察開始が9月に入ってからだったので、このタカたちのその後の動きはフォローされませんでした。しかも図を見ると、水戸の空を渡ったタカたちの一部は、埼玉県を越えて行きそうですね。

1月号の記事の末文、「秋になったら」を「お盆過ぎたら」に変えた方がよさそうです。

● タカといっても、何を探す？

種類はわからなくてもOK。とにかくタカ、それも複数で飛んでいるタカを探しましょう。この季節に複数で飛んでいるタカは、トビでなければサシバやハチクマである可能性が高いと思われます。

複数といっても、県内で見られるのは2～3羽からせいぜい10数羽程度。それも1羽、続いてまた1羽と断続的に現れることが多いので、タカを見つけたらしばらく周囲の様子を観察してください。

タカかどうか識別する自信がない方は、上昇気流に乗って上がってゆく鳥を探してみてください。トビでも、タカ以外のカラスなどでも構いません。タカの渡りに不可欠である上昇気流が起こりやすいところは、渡りの

コースになっている可能性があります。

● どこで探す？

ここでもう一度、図をご覧ください。自宅などの近くにルートがありそうなら、ベランダや屋上など見晴らしの良い所で空を眺める時間を作ってみてください。

マイフィールドをお持ちの方は、フィールドでいちばん見晴らしの良い場所で、空を眺めてみましょう。

地図が好きな方は、地形図を読み解いてタカの通りそうな場所を探してみましょう。山の斜面など上昇気流が起こりそうな場所、平地の中の小高い場所などがポイントになりそうですね。

● いつ探す？

毎日毎日、一日中、というのは現実的ではありません。まずは渡りそうな日の午前中に少なくとも30分、できれば1～2時間、のんびりと眺めてみましょう。

渡りそうな日とは、低気圧通過の翌日か翌々日。タカといえども悪天候の日は行動せず、天気回復を待って渡ります。風も重要で、強すぎても無風でもだめ。特に渡る方向（南、西）から強い風が吹く時はあまり飛びません。

朝は無風でも、だんだん気温が上がり上昇気流が起こるような時は、昼近くにけっこう飛ぶことがあります。時刻は、一般的には午前中がよいといわれますが、午後にも飛ぶことがあります。午後遅い時間に飛ぶ場合は、近くに一夜を過ごすねぐらがあるかもしれません。いろいろな時間帯にトライしてみましょう。

● 鷹ひとつ見つけて嬉し埼玉県！

何らかの成果がありましたら、日時と場所、わかれば飛来・飛去方向を「野鳥情報」へお知らせください。種類がわからなくても「8

月○日午前×時、大宮駅上空をタカが3羽、東から南へ飛ぶ」といった程度でけっこうです。

何度も挑戦したけれど成果なし、という場合の方が多岐にわたるかもしれませんが、あきらめないでください。せっかくタカの渡りに興味を持ったのですから、天覧山や中間平等など定期的に観察が行われている場所へ出かけて、観察に加わってみましょう。

これらの場所で長年観察を続けている方

の多くが「人手があれば、あの辺も見てもらいたいな」という望みをお持ちです。観察に頻りに参加し、タカを見る目を養い、この望みに応えましょう。既知のポイントから新たなポイントを見つける、という繰り返しが、渡りのルート解明には大切です。しかし何よりも大切なのは、埼玉県空を眺めてくれる人が1人でも増えることなのです。

* <http://www.gix.or.jp/~norik/hawknet/hawknet0.html>

オオハムとシロエリオオハムの識別

榎本 秀和(鴻巣市)

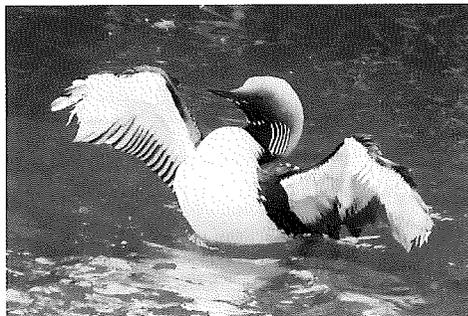
6月のある日、シロエリオオハム夏羽が1羽、なんと群馬県高崎市内の川にいる、と聞いた。行ってみたら幅3メートルほどの川だった。その川に架かる小さな橋の下を、嘴を水中に潜らせながら行ったり来たりしていた。夏羽のシロエリオオハムをこんなに間近に見るのは初めてだ。しかし、数メートルという超至近距離から見たこのシロエリオオハムの前頸光沢部分は緑色に見えた。近くにいた女性が「グリーンね!」とつぶやく声も聞いた。私と同様の感想だ。見る位置を変えたりしながら注意深く見直したが、やはり紫色には見えなかった。この日は曇天で日射しはなく、見え方に太陽光の影響はなかったと思う。家に帰って、当会会員の長嶋宏之氏が6月17日に撮影されたカラー画像を参照してみると、当該部位が紫色に見えるものと、紫に緑のグラデーションがかかったように見えるものがあり、「微妙」としか言いようがない。

夏羽のオオハムとシロエリオオハムの識別について、両者の前頸光沢部分の呈する色合いの違いを指摘する図鑑は多い。今回観察したこの鳥は全体的に見てシロエリオオハムに間違いないと考えるが、前頸光沢の色の見え方に関し、私は人間の視覚のあやうさを思うとともに、識別の決定打とは言い切れない

ということをあらためて感じた次第である。

最後に、今回の観察で印象に残った点を挙げる。①上下の嘴の基部に細いがはっきりした白い縁取り線がある。②足は濃い灰色だが指の先は肌色をしている。この2点を、図鑑には記されていない知見として今後の観察の参考に供したい。

※本件個体は、冬羽のところに放鳥されたものという話を聞いたが、それはどうだろうか。前記・長嶋氏の撮影された画像に、左右の翼の初列風切羽先端が不自然な形状に見えるものがある(下写真参照)。アビ類は秋晩くから春先にか



けて完全換羽する(個体差あり)ので、そのときは一時的に飛べなくなることが知られているが、本件個体は夏羽への換羽が終わった後に、何らかの事情で人為的に翼を切られて飛べなくなった(?)ものと思われる。「3週間ほど前に、養魚場のネットに引っかかっていたのを、翼を切って助け出した」という話も耳にしたが、このほうが事実に近いのではないかと。



野鳥情報

蓮田市掛 ◇5月1日、チュウサギ9羽、ムナグロ42羽（本多己秀）。

春日部市中央町第一公園 ◇5月3日午前7時15分頃、キビタキ♂1羽が市役所庁舎の西隣、街中の公園のケヤキで盛んに囀っていた（石川敏男）。

春日部市薄谷 ◇5月3日早朝、キアシシギ1羽が田の畔で休息中を目撃。今季初認。5月8日早朝、探鳥中に西方よりムナグロ6羽に混じって小型のシギ1羽を認めた。近くの畔に群れが舞い降りたので観察。トウネンタイプの夏羽、脚は黒、喉は白く胸部は橙褐色だったのでヨーロッパトウネンと判断した。5月19日午後12時25分頃、アマサギ1羽を視認。水田で採餌後、西方へ飛去した。5月25日早朝、田植え後の水田内で採餌するセイタカシギ1羽に遭遇。この日は終日同じ田んぼにいたが、翌日ほどこかへ飛び去り見えず。たった1日だけの飛来に終わってしまった（石川敏男）。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇5月5日、今日も小雨がちのはっきりしないお天気となれば迷わず田んぼです。As区、ムナグロ3カ所で計約70羽。本日その群れに混ざるのはソリハシシギ、トウネン各1羽。5月6日、さてゴールデンウィークの締めは（…個人的にはずーっと仕事でしたが）、ムナグロ約100羽のなかにウズラシギ1羽！わずかな時間を割いて連日の鳥見、睡眠不足でへろへろです。5月14日、早朝から秋



ヶ瀬公園に出かけるもあまりぱっとせずそのまま田んぼへ。As区でムナグロ25羽と一緒にキアシシギ7羽、こちらもあり変わり映えしない。こんなもんかと帰ろうしたところ畔の奥に変わった柄の頭が2つ…タマシギのつがいでした（左下写真）！しかも至近距離！思う存分観察させて頂きました（石塚敬二郎）。◇5月6日午前11時～12時、A'区でムナグロ65羽（3カ所の合計）。午後1時過ぎ、ケリ。5月6日午後12時～1時、A区でムナグロ12羽、コチドリ2羽、コアジサシ2羽。他に、ダイサギ、ツバメ、ヒバリ、セッカ、オオヨシキリ、ハクセキレイ（吉原俊雄・早苗）。

さいたま市緑区宮本 ◇5月10日、亜高山の鳥メボソムシクイ、囀りは「銭取り 銭取り」。6年前、日光白根山で聞きました。その他センダイムシクイ、オオルリ。渡りの途中かな？（野口 修）。

鴻巣市大間一丁目 ◇5月14日、午後10時15分過ぎ、いきなりホトトギスの声が2声。夜空を渡っているのだろう。今季初認（榎本秀和・みち子）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇5月6日、ハシボソガラスの桐の巣の雛はまだ巣立たない。藤棚の巣は静かだ。親の姿が見えない。この頃、午前5時30分～7時の間、コジュケイが頻繁に鳴く。5月17日、桐の巣の雛は無事に巣立ったようだ。公園の園路脇にオナガの首なし死体が落ちていた。「タカ落とし」のようだ。ハヤブサの犯行か？5月19日、カッコウの声を聞いた。今季初認。5月23日、ホオジロとカワラヒワが囀った。近頃、この辺りでは珍しい。カワセミが西沼で繁殖し、5分おきに餌を運んでいた。市役所の公園担当がロープを張って、人が近づかない様にしてある。藤棚のハシボソガラスの巣の雛は無事に巣立ったようだ。5月28日午前6時30分頃、カッコウが遠くの方で鳴く声を聞いた（長嶋宏之）。

春日部市増田新田 ◇5月10日午前7時30分頃、県道野田岩槻線北側の農道脇にやけに白いチドリ型の鳥1羽を視認。よく観察した結果、ダイゼンだった。最近の嵐のよう

な風雨で内陸に飛ばされたのでは。当地での自己初認。同日の夕方も同じ場所に滞留。

5月13日の午後5時20分頃と5月14日早朝にも同じ場所にいた(石川敏男)。

越谷市千間台西第4公園 ◇5月11日早朝、同公園西側の林でセンダイムシクイの声を聞いた(石川敏男)。

さいたま市西区昭和(大久保農耕地) ◇5月17日、アマサギ夏羽1羽、アオサギ、ダイサギ。まだ嘴が黄色いチュウサギ2羽。コアジサシ15羽+。5月22日、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ。ムナグロ1羽、キアシシギ1羽、コアジサシ5羽。5月29日、キジブ1羽、ダイサギ、チュウサギ。遠くでカッコウの声。コチドリ1羽。コアジサシ3羽。この場所でたくさん営巣すると期待していたのに、日を追うごとに減ってゆくコアジサシ。何で?(小林みどり)。

春日部市一ノ割 ◇5月18日昼頃、田の畔でムナグロ7羽と一緒に白いダイゼン1羽が休息中。恐らく5月10日に見たのと同一個体だろう。翌日は両種とも飛去して姿見えず(石川敏男)。

加須市加須はなさき公園周辺 ◇5月20日、ダイサギとチュウサギの繁殖羽の個体があった。コチドリが営巣しているようだ。オオヨシキリが盛んに鳴いていた(長嶋宏之)。

本庄市利根川坂東大橋周辺 ◇5月21日、雨の中、ハジロクロハラアジサシ成鳥1羽(右上写真)、幼鳥2羽、ツバメチドリ2羽、ユリカモメ1羽が来てくれた。今年は特にコアジサシが100羽を超えるコロニーを作っているのだから、気安く立ち寄るのだろうか? ハジロクロハラアジサシは翌日まで見られた。5月26日、チョウゲンボウ、今年も3羽巣立ち(森田文三郎)。

加須市佐間 ◇5月25日、シラコバト4羽。近くには“お約束”の豚舎(小林みどり)。

さいたま市北区芝川(県道2号線~鷲山橋)
◇5月26日、カワセミ1羽、川岸の草にじっととまっている。全体的に色が不鮮明。幼鳥かもしれない。6月3日、オオヨシキリ1羽、最初はアシ原の中で「ギョギョッ、



ギョ」と短く断続的に鳴いていたが、そのうちに興が乗ってきたのか低木の梢に上がって来て本格的にさえずる(小林みどり)。

蓮田市 ◇5月26日、JR蓮田駅近くでツミ(本多己秀)。

さいたま市岩槻文化公園 ◇5月27日午前9時30分頃、サンコウチョウ♀1羽。シジュウカラ、コゲラ、カワラヒロ各数羽。普段聞き慣れない声でしたので、立ち止まる。はっきりとサンコウチョウの声と分かった。葉に隠れてちょこちょこ移動するので、なかなか姿が見つからず苦労する。何とか目の周りのブルーを確認できた。背中から尾に掛けて褐色が強かった(菊川和男)。

秩父市 ◇6月26日午前10時30分頃、ミュージックパークを散歩していたところ、野外音楽堂の裏側(北側)の雑木林から突然アカシヨウビンの鳴き声が聞こえてきた。私の幼いころ(70年前にもなります)には、秩父でもアカシヨウビンの声がよく聞かれ、当時の大人たちは「アメフレフレーが鳴いてるぞ、明日は雨かな?」などとよく言っていたのを覚えている。ここ何十年も秩父でアカシヨウビンの声を聞いたことがないので、今日はとても感動しています(守屋充幸)。

表紙の写真

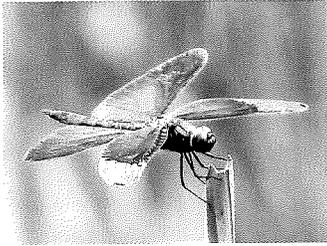
スズメ目セキレイ科セキレイ属キセキレイ

昨年7月、日光。虫をフライングキャッチ。幼鳥3羽を子育て中。はらはらして見ていると、餌をもらった幼鳥は、茂みに身を隠しました。

榮 武男(春日部市)



行事案内



チョウトンボ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

小雨決行ですが、悪天候や異常高温の場合は中止することもあります。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：8月3日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:36 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、浅見、大坂、岡安、柴田、立岩、飛田、内藤、永野、村上、山野、吉原(早)

見どころ：夏休み真っ盛り！ 親戚や近所の子供たちも誘って、石戸宿に集合！ 緑陰の涼しい(ことを期待している)小道を、野鳥の気配を求めて歩き回ります。昆虫もいっぱいいます。特に、この公園はトンボの種類が豊富です。夏の半日、少年時代に戻って鳥と虫を求めて、汗をいっぱいかきましょう。帽子と水筒、必携です。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：8月10日(日)

集合：午前8時20分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷8:00発、または寄居7:39発に乗車。

担当：茂木、新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上

見どころ：昨年8月は高温注意報のため中止になった熊谷なので、今回のコースは土手沿いを左にとり野鳥の森をめざします。小鳥たちも森や草陰で陽ざしを避けています。姿を求め、遠くからの鳴声にも注意

を払い、今回は五感をフルに働かせるときです。

ご注意：7～9月までは夏時間です。日陰の少ないコースです。飲料水や帽子など、暑熱対策をしっかり取りましょう。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：8月16日(土)

集合：午後1時、JR武蔵野線南船橋駅前。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和12:01→南浦和12:04→南船橋12:54着。

担当：杉本、伊藤、手塚、野村(修)、長谷部、菱沼(一)、和田、渡邊

見どころ：潮回りにより午後の開催です。繁殖地から越冬地に向かう途上のシギ・チドリを観察します。鳥が少ないこの時季、ここ谷津干潟なら至近距離で多くのシギ・チドリを観察できます。お盆休みの思い出に、どうぞお出かけください。

解散：午後3時過ぎに現地解散。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：8月16日(土) 午後3時～4時ころ

会場：会事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：8月17日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ(注意：担当者は8時過ぎに北浦和東口到着予定です)。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館
担当：青木、赤堀、浅見、楠見、小菅、小林
(み)、柴野、新部、畠山、増田
見どころ：暑い夏。道路の照り返しもきついです。ただ夏に汗をかくと冬風邪をひかなくなるという説もあります。いつもよりコースを短く日影を選んで歩きたいと思いません。一緒にいい汗をかきませんか。三室名物、真夏のホオジロの囀りを楽しみましょう。

千葉県・ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期日：8月24日(日)
集合：午前9時、JR総武線船橋駅改札口付近。
集合後京成バス9:20発船橋海浜公園行に乗車し、終点下車。
交通：JR武蔵野線南浦和7:57→西船橋にて総武線乗り換え
担当：佐久間、佐野、菱沼(一)、和田、渡邊
見どころ：年々温暖化が進み暑くなって来ていますが、今年はエルニーニョの予報で少しは涼しくなるのでしょうか？ 三番瀬ではシギ・チドリ、アジサシなど渡りのシーズンです。埼玉では見られないシギ・チドリを楽しんでください。

リーダー研修会(要予約)

期日：9月7日(日) 午前9時30分～午後4時30分(受付開始：午前9時、昼食：弁当支給)。
会場：北本市・埼玉県自然学習センター
交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス8:36発で「自然観察公園前」下車。
申し込み：初めてリーダー研修会に参加される方は往復はがきに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、推薦者名を明記して長野誠治へ。8月31日まで。役員・リーダーの方も電話またはメールにて、必ず事前に参加申し込みをお願いします。
初めての方参加資格：探鳥会や支部活動にリーダーとして協力できる埼玉会員で、役員・リーダー1名以上から推薦があった方。
その他：筆記用具と簡単な観察用具持参。

残念！ 今年のコアジサシ

海老原美夫(さいたま市)

今年もさいたま市西区の荒川堤防上でコアジサシ数羽が抱卵を始めた。昨年は人が立ち入れない場所で無事に10巣ほど巣立った。今年は、一応鉄パイプで仕切られているが、人が行き来している堤防上の砂利道だ。

国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所西浦和出張所に、コアジサシという鳥が世界的に保護すべき重要な鳥であることを伝えて話し合った。その結果、同事務所の職員、関係測量会社、調査会社、施工業者がこの区間の堤防上を歩かないよう周知徹底し、6月早々に予定していた芝養生工の抜根作業を8月にずらす約束と、「砂利の上で野鳥が子育て中。しばらくの間立ち入らないようご協力をお願いします。日本野鳥の会埼玉」という貼り紙を出すことの承諾を得た。堤防の管理上支障がない限り、人が自由に歩くことを禁止できない同事務所としては、最大限の譲歩と言える。パウチ加工貼り紙を、8枚も作成してくれる協力ぶりは、思いがけないほどと言ってよい。

お願い文書を貼ったのが、5月20日(火)。



その後、ほぼ2～3日に1回ほど現地に通り、立ち入ろうとする人に協力を求める日が続いた。多くは快

く承知してくれ、一緒に呼びかけを手伝ってくれる人もいた。当然ながら無視する人もいる。つまり、立ち入る人は少なくなったが、無くなることはなかったのが実情だ。

抱卵しているような姿勢で座る個体を7羽まで数えたコアジサシは徐々に少なくなり、6月10日(火)頃にはほとんどゼロ。コチドリが2～3羽抱卵姿勢を見せるだけになり、16日(月)には、それも見えなくなった。

近くにはもっと適していると思える場所もあるのに、コアジサシたち、なぜ人が通る場所に営巣しようとしたのだ？ 長年鳥を見ていても、鳥の気持ちは分からない。



行事報告

9月1日(日) 平成25年度リーダー研修会

参加：54名

埼玉県自然学習センターで開催。(公財)日本野鳥の会から生田南美子さん、堀本理華さんが参加された。本年度は「探鳥会を演出する」のテーマで、リーダーの役割やみんなが楽しめる探鳥会についてブレインストーミングを行った。午後からは自己紹介、各部からの報告、会の概況などのプログラムが進み、最後に新リーダーに藤掛代表から腕章の授与が行われ、有意義な研修会を終了した。新リーダーは石塚敬二郎、菊川和夫、田島利夫、星野充江、渡邊榮子(敬称略)。(橋口長和)

2月9日(日) 群馬県 小根山森林公園

参加：5名 天気：快晴

キジバト トビ オオタカ ノスリ コゲラ アカゲラ カケス ハシボソガラス ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ヒヨドリ エナガ メジロ ミソサザイ ルリビタキ ジョウビタキ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ カワラヒワ ベニマシコ ウソ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ クロジ (29種) (番外：ガビチョウ) 前日に降った雪が20cm位積っている。ゆっくり進んだおかげで沢浴いをちょこちょこするミソサザイや木の天辺で囀るイカル等を見る事ができた。やまぶきの郷では雪に映えるベニマシコが見えた。やっとの思いで到着した小根山森林公園では、今年も暖かい味噌汁でもてなしてくれた。新雪を踏む感触が楽しかった。(入山 博)

2月9日(日) 熊谷市 大麻生

積雪のため中止。(榎本秀和)

2月9日(日) 所沢市 狭山湖

積雪のため中止。(石光 章)

2月11日(火、休) さいたま市 大宮市民の森

参加：53名 天気：曇

コハクチョウ ヒドリガモ カルガモ ハシビロ

ガモ コガモ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ コサギ バン ユリカモメ セグロカモメ ハイタカ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ムクドリ アカハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (34種) (番外：ドバト) 残雪の中の探鳥会。私の下見で鳥が出ない時は本番で多くの鳥が見られるという法則があるが、今回もまさにその通り。上空にはコハクチョウ！ 定番の川の宝石カワセミ！ 今年は少ないアカハラ！ 川を遡るユリカモメにセグロカモメ！ 芝川をゆっくり歩きすぎ、大和田緑地に行けなかったが、それだけじっくり鳥を見られた。(青木正俊)

2月15日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

雪のため中止。(中村豊己)

2月15日(土) 上尾市 丸山公園

雪のため中止。(大坂幸男)

2月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：5名

宇野澤晃、海老原教子、海老原美夫、柴野耕一郎、藤掛保司

2月16日(日) 本庄市 坂東大橋

積雪のため中止。(新井 巖)

2月16日(日) さいたま市 三室地区

参加：17名 天気：晴

オカヨシガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ バン オオバン オオタカ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ カシラダカ アオジ (31種) (番外：ドバト) 週末に2週連続の大雪。おまけに当日は、大風！ 参加人数は少ない。融けかけた残雪の道を進み、北風を避けて雑木林や住宅地で探鳥。雪の照り返しのせいか、鳥たちはいつもより一層鮮やかに綺麗に見えた。(浅見 徹)

2月16日(日) 志木市 柳瀬川

参加: 14名 天気: 晴

キジ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ オオバン イカルチドリ イソシギ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヒバリ ヒヨドリ ムクドリ ツグミ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (33種) (番外: ドバト) 残雪が多く開催をあやぶんだが、参加者が集まった。土手に出ると北西の風が強かった。柳瀬川の水量は前日より大幅に下がり、カモ類が戻っていた。雪が少し解けた土手の草むらにスズメ、ムクドリ、カシラダカが集まり、ヒバリが土手の草むらや河原で見られた。枯れた葦には普段見つけにくいオオジュリン、アオジ等が簡単に見られた。(持丸順彰)

2月23日(日) 行田市 利根大橋

参加: 21名 天気: 快晴

オカヨシガモ ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ アカエリカイツブリ カムリカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ オオバン シロチドリ イソシギ ウミネコ セグロカモメ トビ チュウヒ ノスリ チョウゲンボウ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヒバリ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ ホオジロ オオジュリン (45種) (番外: ドバト) 晴天・無風の絶好の条件。水面に浮かぶ水鳥達を丁寧に観察した。カムリカイツブリの夏羽に変わっている個体があったのが印象的だった。利根大堰の放水の影響で下流の中州が殆どない状態だったが、ハヤブサが対岸の岸辺で水浴びをしていた。春の日差しを感じた1日だった。(入山 博)

2月23日(日) 東松山市 物見山

積雪のため中止。(千島康幸)

2月23日(日) さいたま市 岩槻文化公園

参加: 44名 天気: 曇

コジュケイ ヒドリガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ イカルチドリ セグロカモメ ノスリ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (35種) (番外: ドバト) “三日月池”では、シジュウカラのペア、コゲラ、ルリビタキ♀が出現。村国池はいつもの賑いなし。雑木林上方にカワラヒワの群れ。後半は行く先々でアオジが迎えてくれた。今冬はアオジが多いようだ。釣堀近くの湿地でカワセミとベニマシコが出て、参加者の関心が俄然高まった。元荒川は水量が多い為か、いつもより水鳥が少なかった。最後を締めてくれたのはハシブトガラスの監視に耐えて枝に止まるノスリだった。(石川敏男)

3月2日(日) 蓮田市 黒浜沼

雨のため中止。(玉井正晴)

3月9日(日) 加須市 加須はなさき公園

参加: 26名 天気: 晴

キジ ヒドリガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ バン オオバン トビ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (30種) 今回のテーマは「野鳥のチャームポイントを探そう」で、用いた資料は「鳥類の豊かな視覚世界」だ。例にカイツブリの可愛い尾羽をあげた。スタートして間もなくオナガの群れに出会う。順光で綺麗だ。青毛堀川ではコガモやカルガモの翼鏡がキラキラ光る。鳥は何色で見ているのだろうか。バンやオオバンもいた。これら雌雄同色の鳥はつがい相手をどこで選ぶのだろうか。対岸のモズの栗色に、カワラヒワの黄色に歓声があがる。ポート池でヒドリガモが群れ、雄は繁殖羽を誇らしげに泳ぐ。繁殖羽のカイツブリもいた。尾羽を観察できた人が数人いたようだ。満開の梅の花を忙しく移動するメジロのつがいを楽しんで探鳥会を終えた。(長嶋宏之)



●葛西臨海公園東京五輪カヌースラロー
ム競技場計画変更を求める運動に朗報

すでに新聞・テレビなどで伝えられている通り、東京都の舛添要一知事が、会場予定地を葛西臨海公園から近くの都有地に変更する方針を明らかにしました。2020 年東京五輪・パラリンピックの準備状況を監督する国際オリンピック委員会 (IOC) 調整委員会のジョン・コーツ委員長は、6 月 27 日(金)東京都内で記者会見し、都の方針について「国際競技団体の承認が必要」との条件付きで理解を示しました。「コーツ委員長は、葛西臨海公園の会場変更は、4 月に事務折衝で来日した際に自ら進言したことを明かした。」との報道もあります。

日本野鳥の会東京が中心となり、当会会員の皆様にも大変多くのご協力をいただいた署名運動は、大きな成果を实らせつつあります。ありがとうございました。

●会員の普及活動

5 月 31 日 (土)、熊谷市大麻生からひろせ野鳥の森で行われた新ハイキングクラブ主催行事「鳥を観る・知る(10)」において、小林みどり、浅見徹、工藤洋三、柴野耕一郎の 4 名が野鳥観察を指導。新ハイキング側参加者 18 名、鳥 23 種でした。

6 月 14 日(土)さいたま市立浦和博物館主催の親子探鳥会が開催され、楠見邦博、新部泰治、小菅靖、島山孝、石塚敬二郎の 5 名が、親子 37 名の参加者を指導。久しぶりの快晴、空にヒバリが歌い、ホオジロがさえざる姿に、親子が歓声をあげる探鳥会になりました。

●奥多摩支部事務局変更

新事務局：青梅市大柳町 1501 荒井悦子様
方 TEL 0428-23-3498

●メールアドレス変更

当会事務局のメールアドレスを下欄の通り変更しました。編集部への原稿、野鳥情報は、従来通りです。

●会員数は

7 月 1 日現在 1,814 人。

活動と予定

●6月の活動

6 月 14 日(土) 『しらこぼと』7 月号校正 (海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、小林みどり、長嶋宏之、藤掛保司)。

6 月 15 日(日) 役員会(司会：相原修一、各部の報告・9~12 月の行事予定・次期役員会構成・総会準備・その他)。

6 月 24 日(火) 『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』7 月号を郵便局から発送(海老原美夫)。

●8月の予定

- 8 月 2 日(土) 研究部・編集部・普及部会。
- 8 月 9 日(土) 9 月号校正(午後 4 時から)。
- 8 月 16 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。
- 8 月 17 日(日) 役員会 (午後 4 時から)。

編集後記

6 月末に始まった読売新聞夕刊の連載小説(佐伯一麦『空にみずうみ』)が面白い。仙台在住の作家だが、やたらと鳥の鳴き声が出てくる。同好の士? 今 (7/3) までの出現鳥は、アオバズク、ヤブサメ、センダイムシクイ、ホトトギスそしてガビチョウ。野鳥・自然好きの人にしか理解できない私小説? でも、味わい深い。(T.A.)

しらこぼと 2014 年 8 月号(第 364 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/ 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社